



第468回 例会報告 2005.3.26(日)

創立9周年記念例会 於：スザカ迎賓館(14:00~) 「熟年恋愛講座」~高齢社会の性を考える~
◆講師：ノンフィクション作家 小林照幸様

■植木会長

今年の創立記念「市民公開講演会」は、長野市出身・在住の若きノンフィクション作家である小林照幸先生に『熟年恋愛講座』~高齢社会の性を考える~という演題で、約1時間半にわたりお話をして頂きました。

当日は小雨模様の中、須坂市内外より100名を超える方々にご参加いただき、準備した椅子もほぼ満席となりました。

「高齢社会の性について考える」と言う、一般的にはタブー視されがちで、なかなか聞くチャンスもないテーマにつ



いて、資料をもとに科学的に、具体例等を加えながら、分かりやすく話していただきました。先生が実際に足を運んで見てこられた老人施設でのお話とか「モテるおじいちゃん・モテるおばあちゃん」ってどんな人?……。等々楽しく興味ある話題に、時には会場が笑い声で溢れ、あっという間に時間が経過しました。又講演の前半で一度、そして最後にもう一度お話された、「アンチエイジング」と「かきくけこ」の関係については毎日の生活の中で、出来るだけ意識しながら過ごしたいものだと思います。

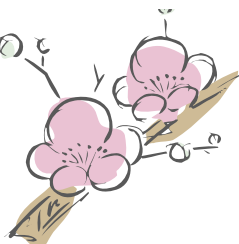
聴講された方からも「いつまでも心身共に健康で若々しく楽しい人生を過ごす為のヒントを得ることが出来、大変有意義な講演会でした。」との感想が聞かれました。

なお、当日、講演会の開始前及び、終了後に『熟年恋愛講座』を始め、先生の著書がサインを受けながら多数販売

されており、人気の程がうかがい知れました。

夕方からの懇親会も先生を囲み、会員及びその家族と共に賑やかに行われました。

その折にも多数の個人的な質問を交えながら、和気あいあいのなか、ゆっくりと懇談することが出来ました。





小林照幸様 プロフィール

- 1968 (昭和43)年4月5日、長野生まれ。長野県立長野高校卒業。
- 明治薬科大学在学中の1992年(平成4年)、奄美・沖縄に生息する毒蛇「ハブ」の血清造りに心血を注いだ医学者の半生を描いた医学史発掘ノンフィクション『毒蛇(どくへび)』で第1回開高健賞奨励賞を受賞。
- 1999 (平成11)年、『朱鷺(トキ)の遺言』で、第30回大宅壮一ノンフィクション賞を史上最年少で受賞。
- 日本文藝家協会、日本推理作家協会、日本熱帯医学会各会員。
- 1999 (平成11)年5月から2000 (平成12)年12月まで、TBS系『関口宏のサンデーモーニング』のコメンテーターを務めた。
- また、1996 (平成8)年から2001 (平成13)年の5月まで、大相撲・二子山部屋の後援会機関紙『二子山部屋ファミリーニュース』の編集責任者に携わる。
- 1999 (平成11)年4月からSBC信越放送『ニュースウィークリー』のコメンテーターを現在まで務める。

『熟年恋愛講座—高齢社会の性を考える』



- (1) 世代を問わずにあてはまること
「かきくけこ」の効用
か→感動する き→興味持つ く→工夫をする
け→健康でいること こ→恋をすること
- (2) 「性」の文字の成り立ち→人それぞれの問題ではあるが
- (3) 生物学的に考えられる「自己保存」と「種族保存」
- (4) 人間の性行動の特徴→情緒安定のための性行動
- (5) 高齢者、若者とそれぞれの「性」への偏見
- (6) 「老いらくの恋」と福田定一という新聞記者
- (7) 歌人・川田順の「墓場に近き老いらくの恋は恐るるものはなし」
- (8) 文豪・ゲーテ79歳の「わが胸のいずこに君は住むというのか」 1832年に83歳で没する4年前の出来事について
- (9) クオリティ・オブ・ライフはクオリティ・オブ・ラブ
- (10) 厚生白書が示した画期的な見解
- (11) 性欲はどこから来るのか？
- (12) 「トシを取ったら枯れる」の幻想はどこから来たか？
- (13) 性ホルモンの血中濃度グラフが語る医学的真相
- (14) 脳が語る性とは？
- (15) 脳の進化が語る性
- (16) 人間の性行動と動物の性行動
- (17) 人間の性行動＝性ホルモン＋性中枢＋外的な刺激
- (18) 「性行為する脳」と「性行為を求める脳」
- (19) 男性と女性の脳の構造が語る性
- (20) 高齢者の現況について
- (21) ストレス社会はなぜセックスレスを引き起こすのか？
- (22) 脳が健康であると喜ぶべきか？
- (23) 性という人間の業(宿命)は人間の体の進化の結果？
- (24) アンチエイジング(抗加齢)を考える
- (25) 団塊世代が高齢者になるのにあたって
- (26) 不倫を文化にしてよいのか？
- (27) 高齢者出会い系パーティーが語る男女の希望の相違とは？
- (28) 性という人間の業(宿命)に対する自己責任

講演後対談

中山幹事・小林晃SAA・渡辺国際奉仕委員長

中山幹事:「いやー今日は、中身の濃い講演会でホント良かったよね。」

小林SAA:「そうですね。」

中山幹事:「皆さんの協力のお陰です。本当に有難うございました。特に司会的小林さんすばらしかったです。会場の雰囲気も良かったしね。渡辺委員長も寒い中、駐車場係ご苦労様でした。今日の講演を聴いて何か性に目覚める事はありますか？ 渡辺さんは今2人お子さんがいますけどどうですか？ 一世帯当り2人以上子供がいないと世の中良くならないと思うんだけど……」

渡辺委員長:「2人いればウチはもういいですが……(笑)」

中山幹事:「今日の講演を聴いてみると、やっぱり歳したら夫婦のコミュニケーションは大切だね」

小林SAA:「実感ですが、年齢に関係なく大切なんですよ。」

中山幹事:「どう言う意味ですかそれは……(笑)。」

今日はいやらしい意味での性の話ではなくて、人間としてというか人間だからこそそういう行為は大切なことで、満足感は情緒も安定させるんだというようなことでしたよね。」

渡辺委員長:「そう、そして高齢者にとってもいきいきと生きるためには必要なことであるとも感じました。」

小林SAA:「はい、けっしてタブー視してはいけないことなんです。ところで、懇親会の時に小林啓之先生が『50歳を前に今日の話が聞けてよかった』とおっしゃっていましたがあれの意味が良く分からないんだけど……」

中山幹事:「まあいいじゃないですか、それは……。ところで、会長 今日はどうでしたか？」

植木会長:「100点満点で、80点はつけられたんじゃないでしょうか。入った人数からみてもね、中味といい、それから司会進行からみんな良かったですよ。駐車場係も寒い中ご苦労様でした。」